

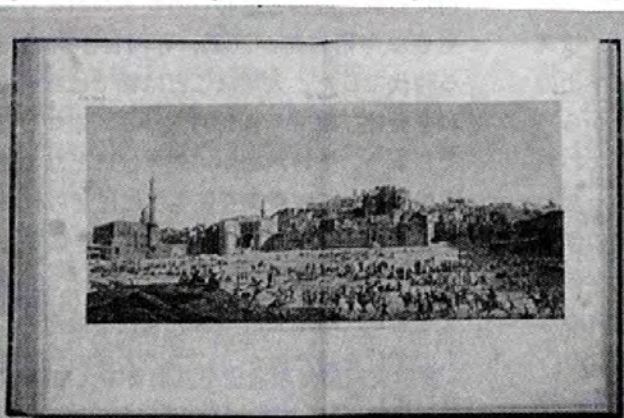
専修大学

図書館だより

第42号 2000.10

目次

「入学の原価計算」の訓え（夷谷廣政）	2
閲覧用カード目録の廃止について	3
新規雑誌受入リスト	3
大学図書館の世紀をみつめて	
—私立大学図書館協会総会・研究大会開催される—	4~5
専修大学120年記念図書館所蔵特別資料展	5
展示開催中です 杉原千畝生誕100年展 —杉原千畝と6000人のユダヤ人—	6
新規購入主要図書紹介	6
生田分館情報	7
データベースが利用できます	7
としよかんインフォメーション	8



『エジプト誌、フランス軍の遠征中にエジプトでなされた観察と研究の集成』
1809-1822 刊行



『ラ・カリカチュール』誌
シャルル・フィリボン主幹
パリで発行された風刺雑誌
1830-1835 刊行

「入学の原価計算」のおし訓え

商学部教授 夷谷 廣政



私は原価の研究をしています。ここでは一人の先達S先生の話を紹介してみたいと思います。

当時とは時代背景を大きく異にしますので反論も成り立つでしょうが、よく生きる上で学ぶべき点が多々含まれていると考えるからです。また、先生が創設期の専修大学で田尻稲次郎先生の講義を聴講されたということも不思議な縁に思えてならないからです。

明治20年に千葉の寒村に生をうけた先生は近くに学者村があったことなどもあり、人一倍向学心が強い青年でした。大学に進むにあたって、私立のM大学を選びました。というのは、授業料の多寡によって、例えば医学士と準医学士の区別がつけられていた時代のことでしたから、貧しい先生は各大学の学費の比較、すなわち「入学の原価計算」を試みざるを得なかったからです。それによると、当時の官立大学の学費は年50円でしたが、私立で一番安いM大学の月謝は2円50銭で、しかも夏休みの8月は納めなくても良かったので、年間27円50銭になり、結局、官立の約半分です。

卒業後、川崎造船所（現川崎重工業）に入りますが、入社試験のときに予期せぬ事態がおとずれました。面接担当者は先生に言ったのです。「君は私立学校出である。給料は官立の半分とする。それでよければ入れ」と。入ってみると、実際、給料は官立出の人の丁度半分でした。多くの人々が嘆くであろうこの事態を、先生は原価の問題と捉えました。コストが安ければ、やはり品物の品質も良くないことが多いのだと。

そこで決意するに至ります「当たり前。月給を貰う以上、月給に相応した以上の仕事をしなければならない」と。

こうして先生のいわゆるセルフ・エデュケーションが始まりました。

その方法とは次のようなものでした。すなわち、入社時の辞令「倉庫課簿記係を命ずる。ただし月給18円也」の5%ないし10%を毎月の図書費に当てることでした。5%というと1円にも満たないと思われるかもしれませんが、主要な学術雑誌が20銭、専門書が50銭で買える時代でした。大切なことは額ではなくて、これを会社在职50年間毎月欠かさず継続したことでしょう。そのためか、先生はほとんど簿記係主任、そして原費調査係主任に任ぜられました。

先生はその後、会社を指揮・監督する傍ら10,000冊余の蔵書、30冊余の著書と500余の論文を著し、原価会計の研究で日本最初の商学博士の学位を得たほか、二つの大学の教授を歴任されました。

我々もまた先生に倣い、自己の足らざるを図書に補い、自己の価値を高めるために図書館を大いに利用したいものです。

(いたに ひろまさ)

主な著作
『経営エントロピーと絶対比例原価計算』
夷谷廣政著 税務経理協会 1981
『神馬新七郎の会計学実践—バイオニア会計人の栄光—』
神馬駿逸、夷谷廣政共編 税務経理協会 1977
『現代経営学の方法—会計学・経営学を科学的に研究する人のために—』
R・シュライバー 著 夷谷廣政 訳 税務経理協会 1975

閲覧用カード目録の廃止について

専修大学図書館が所蔵する図書資料の検索機能は従来カード目録でしたが、平成4年9月からの電算化に伴い一部のカード目録を除いて、カード目録の編成を中止し、OPAC（オンライン閲覧用目録）による図書資料の検索が開始されました。この間、図書館が所蔵する電算化以前の図書資料の目録情報を遡及入力してきましたが、図書については遡及作業も終了し、またOPACによる図書検索も利用者に定着してきました。

これにより、今までの閲覧用カード目録は、生田・神田とも平成12年12月をもって廃止することになりました。



廃止が決まったカード目録

なお、中国語・朝鮮語・ロシア語の図書資料につきましては、データベース化がされておられません。OPACによる検索が可能となるまで、今後もカード目録の編成を続けますので、引き続きカード目録での図書資料検索をお願いします。

新規雑誌受入リスト

平成12年度第1回新規雑誌検討会（7月8日）で、以下の雑誌の新規受入が決定しました。

本館<和雑誌>

1. 日経エコロジー／日経BP（月刊）
2. 現代スポーツ評論／創文企画（年2回刊）
3. 月刊ジャパワールド／IDGコミュニケーションズ（月刊）
4. Linux Japan／レーザー5出版（月刊）
5. ソシオロジスト／武蔵社会学会（年刊）
6. 神奈川工科大学研究報告
A、人文社会科学編／神奈川工科大学（年刊）
7. 早稲田大学曾津八一記念博物館研究紀要／早稲田大学曾津八一記念博物館（年刊）
8. 環太平洋圏経営研究／桃山学院大学総合研究所（年刊）
9. 社会システム研究／立命館大学社会システム研究所（年刊）
10. 琉大アジア研究／琉球大学法文学部附属アジア研究施設（不定期刊）
11. 自動車保険研究／自動車保険料率算定会（年刊）
12. Quadrante／東京外国語大学海外事情研究所（年刊）

13. 日本の言語と文学／檀国日本研究学会（年2回刊）
14. 東北哲学会年報／東北哲学会（年刊）

<洋雑誌>

1. Economic Policy／Cambridge Univ. Press（2N）
2. Journal of development studies／Frank Cass（6N）
3. Finance controle strategie／Edition Economica（4N）
4. Journal of phonetics／Academic Press（4N）
5. Supply chain management review／Cahners Pub（4N）
6. L'enseignement philosophique／Association des professeurs de philosophie de l'enseignement public（6N）

神田分館

- <和雑誌>
該当なし
<洋雑誌>
該当なし

大学図書館の世紀をみつめて — 私立大学図書館協会総会・研究大会開催される —

私立大学図書館協会（会長校・明治大学）の本年度の総会・研究大会が8月2・3日にわたり本学生田校舎114号教室を主会場にして「大学図書館の世紀」の統一テーマのもとに開催されました。今年で61回目という伝統をもつこの会議は両日も400名に及ぶ全国の私立大学図書館の関係者が参加しました。

この総会・研究大会の会期中は書店、コンピュータメーカー、事務機器等の業者の展示が併催され、図書館関連業界の図書館をめぐる現在と

未来の支援環境の現状をつぶさに体験・展望できるようにつくられ、これは、地方から来る参加者の楽しみのひとつにもなっています。今年は丸善株式会社が幹事会社となり33社が62ブースを出展し盛り上げました。

しかし中心は何といても本学の新図書館の見学です。総会・研究大会の会場は、近年に新しく図書館が開館した、比較的大規模な大学に依頼がいくことが多く、本学も平成10年4月に開館した新図書館が、目にとまったのでしょう。本学は第31回（1970年度）に、現在改築中の図書館旧本館が開館したのを機に開催されており、30年を経て2度目の会場提供となったわけです。今回は新世紀を目指す本学の図書館のサービスとその姿勢が問われる場でもあったと言えます。ゆったりとしたブラウジング・プラザや閲覧室を始めAVプラザ、マイクロ資料の

管理システム、書庫の広さなどに感嘆の声があがっていましたが、訪れた見学者の目に本学の図書館とサービスはどう映ったのでしょうか。

改めてこの2日間のスケジュールをたどってみます。



開会式で挨拶する三枝一雄明治大学図書館長

8月2日の開会式の席上で、本学は当番校として久重忠夫図書館長、出牛正芳学長、山下徳夫理事長が開会と歓迎の挨拶を述べました。三枝一雄明治大学図書館長からは、私立大学図書館協会を代表して挨拶があり、この後、来賓とし

て出席した国立国会図書館副館長伊藤尚武氏、文部省学術国際局学術情報課長尾崎春樹氏、日本図書館協会理事長栗原均氏の祝辞が続き、開会式を引き締めました。

総会では、昨年度までの加盟校401校に本年度新規加盟承認校19校を加え420校となったこと、本年度事業としては、協会のホームページが開設され、協会の運営や各種関連情報をスムーズにして活性化を促進させ、もってページの充実を図る、国際図書館協力委員会の各種事業の支援、国立情報学研究所との目録システム地域講習会の共同主催、当協会との定期懇談会などによる協力関係強化、等が承認されています。

総会に続き、土生田純^{はぶたよしゆき}之本学文学部教授の「朝鮮半島の前方後円墳」と題した記念講演があり、遺跡の発掘が続くわが国で、改めて隣国

朝鮮半島に視点を置いたタイムリーな講演は、歯切れのいい口調とあわせ、参加者から好評でした。

8月3日は3つの研究発表と2つの講演があり、研究発表では武蔵野美術大学の黒黒庸光氏から長年収集した資料を通して、「森有正研究」、大阪国際大学の足立恭和氏から「社会科学分野における電子情報サービスの有効性と指標設定」について、神戸女子大学の仲井徳氏から「嵯峨本の書誌的調査—謡曲百番を中心に—」の発表がありました。

講演では今年から組織が変わり動向が注目されている国立情報学研究所（旧学術情報センター）の開発・事業部コンテンツ課長京藤貫氏による「NACSIS-CAT/ILLの現状と将来」の話に関心が集まりました。

続いて東京理科大学光富健一氏の「主題組



土生田 純之文学部教授による記念講演風景

織化における現状と課題」は、図書情報がコンピュータ上に蓄積されてきた現在、検索の便をどう考えるかを、分類を中心に氏が長年研究してきたことの発表だけに、会場の参加者からもエールが送られました。

このほか、大学と隣接する生田緑地に開館して間もない岡本太郎美術館の見学がオプションで企画され、申込者は200名近くにのぼり、遠隔地からの参加者にも印象を残した総会・研究大会となりました。

専修大学創立120年記念 図書館所蔵特別資料展



研究大会の参加者で賑わう図書館展示会場

専修大学創立120周年を記念して生田キャンパスの専修大学図書館では、7月3日(月)から8月4日(金)までの間、図書館研修室において「専修大学創立120年記念図書館所蔵特別資料展」が開催されました。

8月2日・3日にわたり私立大学図書館協会総会および研究大会が本学で開催されたこともあり、入場者は508名を数え、これらの貴重な資料におおいに関心が高まりました。

展示開催中です **杉原千畝生誕100年展** — 杉原千畝と6000人のユダヤ人 —

第二次大戦下ナチスによるユダヤ人迫害は日に激化していた。

当時リトアニアの領事館に勤務していた杉原のもとにユダヤ人難民は日本通過のビザ発給を求め領事館に押しかけてきた。

杉原は再三に渡り日本の外務省にビザ発給の許可を問い合わせたが結果は「No」。このため杉原は人道的な立場から独断で大量のビザを発行し、約6000人のユダヤ人を救うことになった。

展示期間 9月18日(月)～10月31日(火)
場所 専修大学図書館(生田校舎)3F、4F 展示ケース



展示された関係図書と朝日新聞10月11日の朝刊

杉原千畝(すぎはら ちうね)の生涯

- 1900年：1月1日岐阜県加茂郡八百津町に生まれる。
- 1918年：早稲田大学に入学するが、1919年中退し、外務省の留学生としてハルピンに留学する。
- 1924年：任外務書記生となり、2月満州里在勤命令、12月にはハルピン在勤命令が出る。
- 1937年：ソ連勤務を命じられていたが、ソ連から入国を拒否され、フィンランドのヘルシンキ公使館勤務になる。
- 1939年：リトアニアの首都カウナスに領事館開設を命じられる。
- 1940年：7月、ユダヤ人難民への日本通過ビザの独断大量発給を始め、8月26日までに、計2,139家族・約6000人の日本通過ビザを出す。
- 1945年：ブカレスト郊外の捕虜収容所に収監される。
- 1947年：4月に帰国。6月に外務省退官。
- 1960年：商社に勤務し、モスクワに赴任する。
- 1968年：千畝がビザを発給して助かったニシユリ氏と28年ぶりに再会する。
- 1985年：イスラエル「諸国民の中の正義の人賞」を受賞。
- 1986年：神奈川県鎌倉で死去。

(杉原千畝記念館HPより抜粋)

主な展示資料

1. 奇跡の査証 — 杉原千畝と6000人のユダヤ人 — 谷内豊著 フリープレス 1997 915/Ta88 (所蔵：神田分館)
 2. 杉原千畝と日本の外務省 — 杉原千畝はなぜ外務省を追われたか — 杉原誠四郎著 大正出版 1999 K210.7/Su34
 3. ホロコースト前夜の脱出 — 杉原千畝のビザ — 下山二郎著 国書刊行会 1995 915/Sh55 (所蔵：神田分館)
- (その他20点)

新規購入主要図書紹介

- 生田(和書)**
1. 大正期婦人問題文献集成 国立国会図書館編・所蔵 大正12年—大正15年 日本図書センター マイクロフィルム75巻 35mm
 2. 大英図書館所蔵日本古版本集成 第3期：仏書篇本の友社 マイクロフィッシュ 557枚
 3. 国立国会図書館蔵明治期刊行図書マイクロ版集成 哲学部門：倫理・道徳・教訓・処世術・処世方 丸善 マイクロフィルム 100巻 16mm
 4. 対馬宗家文書 第1期：朝鮮通信使記録 ゆまに書房 マイクロフィルム 137巻 16mm 別冊3冊 [AV I 30781-30917]
 5. 明治期刊行物集成 文学・言語編 331—468巻

(ユニット 67-94) 雄松堂書店 マイクロフィッシュ

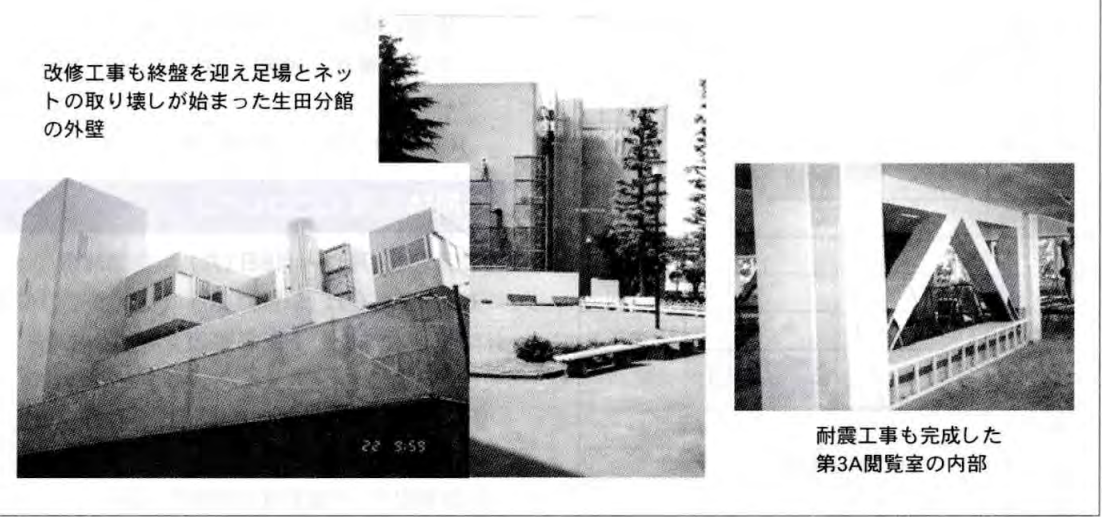
- (洋書)**
1. Joyce, James, 1882-1941. Ulysees. 1st ed. Paris, Shakespeare, 1922. (A933/J85)
 2. Malthus, Thomas Robert, 1776-1834. An essay on the principle of population, as it affects the future improvement of society. With remarks on the speculations of Mr. Godwin, M. Condorcet, and other writers. 1st ed. London, J. Hohnson, 1798. (A334.1/Ma39)

生/田/分/館/情/報

平成13年4月にむけて開館準備中の図書館生田分館は、それぞれ特徴のある閲覧室やコーナーなどで構成されます。

一例をあげると、第1閲覧室の「文庫本・新書本・選書本」コーナー、「教員推薦図書」コーナー、「受験ガイド」コーナー、第2A閲覧室の「旅と歴史」コーナー、第2B閲覧室の「アート&ビジュアル本」コーナー、第2C閲覧室の「英語で読む日本」コーナーなどです。

3階には50席のDVD対応5.1チャンネルの音響装置を備えた視聴覚室(第3B閲覧室)の他、パソコン使用可能な第3C閲覧室。第4A閲覧室には、学生の皆さんが気楽で親しみやすいコミック本等が配架されます。さらに仲間と自由に討論しながら学習・研究できる第4B・第5閲覧室など。生田分館は9号館にある図書館本館とは、随分と雰囲気異なる図書館になる予定です。



改修工事も終盤を迎え足場とネットの取り壊しが始まった生田分館の外壁

耐震工事も完成した第3A閲覧室の内部

***** データベースが利用できます *****

図書館でCD-ROMやインターネットを利用できるのをご存知でしたか? 専修大学図書館ではCD-ROMやオンライン(インターネット)で外部データベースを利用するサービスを行なっています。生田本館と神田分館では、キャンパスの特質からそれぞれ異なったデータベースを提供しています。提供しているデータベースには次のようなものがあります。

本館	J-BISC	神田分館	判例マスター
	雑誌記事索引		法律判例文献情報
	有価証券報告書CD-ROM版		判例体系
	日経ニュース・テレコン(有料)		日経ニュース・テレコン(有料)
	ほか		ほか

インターネット上でネットサーフィンによる情報検索もできます(調査・研究に限っていますが...)。データベースによっては有料のものもありますので、詳しくはカウンターに問い合わせてください。10月20日(金)から神田分館でもインターネットによる情報検索サービスが始まりました。ぜひ利用してみてください。また、図書館で配付している「図書館利用案内」も参考にしてください。

図書館カレンダー

月 日	10月	11月	12月
1	日 休館	水	金
2	月	木	土
3	火	金 休館	日 休館
4	水	土	月 学部学生冬期特別貸出取扱開始
5	木	日 休館	火
6	金	月	水
7	土	火	木
8	日 休館	水	金
9	月 休館	木	土
10	火	金	日 休館
11	水	土	月
12	木	日 休館	火
13	金	月	水
14	土	火	木
15	日 休館	水	金
16	月	木	土
17	火	金 大学院生冬期特別貸出取扱終了 ※体育祭	日 休館
18	水	土	月
19	木	日 休館	火
20	金	月	水
21	土	火	木
22	日 休館	水	金 学部学生冬期特別貸出終了
23	月 大学院生冬期特別貸出取扱開始	木 休館	土 休館
24	火	金	日 休館
25	水	土	月 休館
26	木	日 休館	火 休館
27	金	月	水 休館
28	土	火	木 休館
29	日 休館	水	金 休館
30	月 休館 大学記念日	木	土 休館
31	火		日 休館

生田：9：00～19：00
(土曜日 9：00～18：00)
神田：9：00～22：00

開館情報

- ・ 鳳祭 (11月2日～5日)、神田鳳祭 (10月20日～22日) 開催期間中の開館時間は、本館・神田分館とも通常どおりです。
- ・ 体育祭 (11月17日) 当日の開館時間は以下のとおりです。

<本館>

開催の場合 休館

中止の場合 通常どおり (9：00～19：00)

<神田分館>

開催の場合 17：00～22：00

中止の場合 通常どおり (9：00～22：00)

休館日

10月30日 (月)：大学記念日

冬期特別貸出について

◎12月25日 (月)～1月8日 (月)：冬期休暇

12月25日 (月) から1月8日 (月) までの冬期休暇にともない、下記の要領で実施します。

<学部学生>

取扱期間 12月4日 (月)～12月22日 (金)

貸出冊数 10冊まで

返却期限日 平成13年1月19日 (金)

<大学院生>

取扱期間 10月23日 (月)～11月17日 (金)

貸出冊数 30冊まで

返却期限日 平成13年1月19日 (金)

専修大学図書館だより 第42号

発行日：2000年10月25日

編集・発行：専修大学図書館

館長 久重 忠夫

専修大学図書館

神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

〒214-8580 Tel. 044-911-1274 (直)

専修大学図書館神田分館

東京都千代田区神田神保町3-8

〒101-8425 Tel. 03-3265-8339 (直)

URL: <http://www.senshu-u.ac.jp/>

(専修大学トップページ)